

被災地いわきにおける再生可能エネルギーを核とした 人材育成と地域貢献型実証活動

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 松岡俊二／いわきおてんとSUN企業組合

背景と目的

昨年の研究・活動により、市民にエネルギーや温暖化について考えるきっかけを提供することができた。本年は具体的な事業の拡がりにつなげ、地域に貢献する再生可能エネルギー事業を実証的に行う段階へステップアップを図る。

本年は、研究・活動の成果として講義内容や市民協働発電所の作り方についてマニュアルを兼ねた報告書を作成し、他地域でも活用できるものとしてとりまとめた。今後、実践事例として学術的な活用を可能とする。

研究・活動の概要と個別成果

太陽光、小水力、市民発電などに関し地域で活動している実践者とともに、いわきにおける“市民出資・参画型発電”の形を検討する講座とワークショップを4回程度実施した。ワークショップは実践的内容とし、地域内の施設や学校等へ設備を実装するものとした。

第1回

平成25年9月17日(火)

再生可能エネルギー事業
への市民出資

市民が資金調達(出資)に協力することで、地域のエネルギー環境に貢献する機会をつくるための検討を行い、エネルギーについて再考する機会を提供した。作業を通して今後の活動への協力も得る効果を狙いとして実施した。



いわきおてんとSUNでの
市民出資の取組へ展開



第2回

平成25年10月25日(火)

太陽光発電パネルを
つくってみよう!

地域の中학생向けに開催。太陽光発電パネルの仕組みを勉強し、実際に自分で製作することで、講座を通じて、太陽光を受けて発電する仕組みを知り、自宅やコミュニティに自然エネルギーを実際に導入する方法について一緒に考えるきっかけとした。



中学校の街灯として実装



第3回

平成25年10月25日(火)

太陽光発電パネルを
つくってみよう!

会津若松市の母親連絡協議会として、地域のお母さん方が中心となり、太陽光パネルの自作に取り組むことを検討。さらに作成したパネルをどのようにして地域で活用していくかについて、ワーク形式で検討を行った。



太陽光パネルを使った
地域貢献を検討



第4回

平成25年10月25日(火)

太陽光発電パネルを
つくってみよう!

自作した太陽光パネルを地域で活かすために、その費用(原材料や工賃)を募金として集め、市に寄贈する形で街灯として設置した実践事例となった。市外においても取組が拡大した結果が得られた。



地域貢献型として、
市役所広場に実装



研究・活動の成果



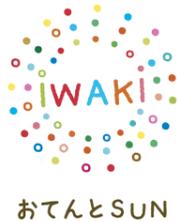
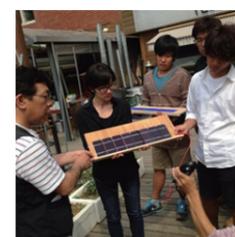
◀ 市民施工型太陽光発電事業マニュアルを作成

▼ 設定した成果目標をクリア

【具体的な数値目標】	目標	成果
講座の参加者数	計4回の総数で120名以上	121名(達成)
地域での実装事業	1か所以上で地域内に再生可能エネルギー設備等を実装。	中学校、会津若松市の2か所で実装を実現

再生可能エネルギー事業を核としたコミュニティの形成を実現

本研究・活動の成果を活かし、韓国において太陽光の自作講習会の実施や、自作講習会を行う事の出来る現地の人材育成に取り組んでいる。



※「いわきおてんとSUNプロジェクト」

東日本大震災により大きな被害を受けた福島県いわきだからできること、やらなければならないこと・・・いわきの明日、持続可能な未来に向けて、3つの復興まちづくり「いわきおてんとSUNプロジェクト」に取り組み始めました。地域住民、避難移住者、農家、事業者、地域づくり団体、NPO、首都圏ボランティア、そして自治体など、様々な人と人の輪をつなぎながら、オーガニックコットン、復興スタディツアーから自然エネルギーまで、市民が主体となった希望のまちづくりにチャレンジしています。これまでのW-BRIDGEのご支援により、いわきコミュニティ電力事業は、上記の通り大きな成果を得ることができました。この成果を活かし、引き続き取組を進めていきます。